



# 卓 話

## 「一年間を振り返って」

梶浦 紀子直前会長

昨年はRIのテーマ「分かち合いの心」を受けて、我がクラブのテーマを「クラブの基盤整備」と致しました。



1. ロータリアンの必読の義務である“ロータリーの友”を月初めに歴代会長の方々に解説、感想等を述べて頂きました。
2. 会長スピーチの時には、ロータリーの宣伝ウーマンとして、“ポールハリスの合理的ロータリアニズム”から始まり、日本のロータリーの歴史、ロータリーの目的である“奉仕の理念”と“奉仕の実践”の解説、又素晴らしきロータリアンの話等、あらゆるロータリー情報を宣伝致しました。またこれらの基になる、文献、資料等は安田IT委員長の計らいで、HPにリンクして頂きました。
3. ニコニコボックスは地域社会、クラブの活性化につながる資金の源です。小林(久)委員長始め心意気のある方々の協力のお陰で、2,146,640円集めることが出来ました。
4. 地域社会に於いては、数年来実施している四谷中学校との俳句の表彰、四谷消防署の協力での防災訓練、ヤクルトの現役選手をコーチに招いての野球教室を開催し、新宿区とJCの主催する「子供わんぱく相撲大会」への協賛を致しました。
5. 国際奉仕に於いては、クラブ20周年記念事業でラオスに寄贈した小学校へ、ラオス語の図書300冊をNPO“ラオスの子供”を通して寄贈し、ラオスの教師の方達への、図書貸し出しと維持の仕方等の研修指導(3日間)もあわせて御願いました。又、地震やサイクロン等の災害地域へ義援金の協力を致しました。ロータリー財団につきましては、小林(俊)委員長の努力と趣旨を理解された方々の協力により、クラブ目標額の150%以上を達成致しました。そして第一回日台親善会議へ当クラブより4名参加致しました。

昨年はクラブの会員の方々へロータリーの知識・情報を提供してきましたが、その中から何かを学

び、認識し、個々に気づきを感じられれば、それはクラブの活性につながり、より良い奉仕活動がえられると思います。

## 「一年間を振り返って」

藤原 博直前幹事

まず皆様のご協力を得、各委員長に支えていただき一年間のお役を無事終えることが出来たことを心より感謝いたします。



私自身ロータリーキャリアも浅く、意気込みと不安で混乱していましたが幹事経験会員の多くの暖かいアドバイスを頂き、ウィルキンソンRI会長のスローガン“ロータリーは分かち合いの心”、梶浦会長の“クラブの基盤整備”のもとスタートした年度でした。

スタート前に会長とクラブ運営、理事会・例会の進行等について熱く意見を交わしましたが、会長の考えを理解してからはスタンスも決まり、各委員長の協力も得て少しユニークな年度となった訳です。

会員の中には例会の進行等、少し違和感を感じた方もいらしたかも知れませんが、四谷ロータリークラブの将来を支える若い会員への知識、力になればと願う会長の気持ちからであったと御理解頂きたいと思えます。

幹事の立場でクラブ初の女性会長を支えることや、クラブへの奉仕を心がけることで、自身もロータリアンとして少し成長出来たようにも思いますが、ロータリーと云えども人の集まりである以上、一般社会の縮図であることは免れないのだなという思いもあります。

しかしながら、ロータリー発祥の原理“寂しいから集まり、そして奉仕すること”を忘れずにいたいと思えます。

初の女性会長を支え、気苦労の多かった幹事は藤原だったとたまに思い出して頂けると嬉しいです。

梶浦さん、皆さん、一年間ありがとうございました。これからも宜しくお願ひいたします。